

2 愛知県全域連携SSH自然科学部交流会

(1) 仮説

自然科学部で研究に取り組んでいる生徒等が大学の研究者から直接アドバイスを受ける機会を作る。このような機会を作ることで、研究のレベルが向上すると同時に、研究に携わる生徒自身の意欲や論理性を高めることができる。また、部活動の顧問が、専門性を高めたり、高大連携の方法や窓口を具体的に知ってその後の活動に生かす効果も期待できる。

(2) 方法

ア 地域（または県下）の理科教育における位置づけと狙い

自然科学系の部活動は、顧問が個人の範囲で指導している場合が多く、実質的に生徒に任せる形となっている場合も多く見られる。本事業はそれらの活動に対して支援を試みるものである。対象生徒は、煩雑な日常生活の中においても自然科学に興味を持ち、地道に研究を進めている有望な生徒たちであり、この事業は意義深い。

また、新聞社や教育機関等が主催している通常の科学コンテストは、成果が評価される場であり、研究上の失敗等を相談する場にはなり得ていない。しかし、実際の研究活動は、時には研究者間の交流を通して、失敗を克服して有意な結果を見出す営みであり、実験の悩みや失敗例について専門家と相談をする機会を作ることには意味がある。

イ 連携先・対象と規模

連携先：名古屋大学 理学研究科、環境学研究科

対象と規模：高校（生徒107名、教員17名） ※10月30日（土）に申し込みをした学校
一宮（生徒48名、教員7名）、時習館（生徒16名、教員3名）、
岡崎（生徒14名、教員2名）、岡崎北（生徒11名、教員1名）、
向陽（生徒8名、教員1名）、半田（生徒6名、教員2名）、
名城大付属（生徒4名、教員1名）

ウ 内容

(7) 事業の概要と現状の分析

本事業は、10月30日（土）に名古屋大学野依記念学術交流館において実施する予定であったが、台風の接近で暴風警報が発令されたため中止となった。

その後、準備したものをそのままにするとモチベーションが下がるからという、理学研究科の先生方の暖かい計らいで、予定されていた事業のうち高校生のポスター発表に対する指導だけを12月24日（金）の科学三昧の事業の中で延期して実施することになった。

(イ) 事業の取り組み

a 実施日時

12月24日（金）

b 場所

愛知県女性総合センター（名古屋市東区上堅杉町1）会議室3、4、5、6

c 注意・工夫した点

展示用パネル、長机、電源や発表スペースを確保し、それらが発表の制約にならないように努力した。ポスター発表は前半・後半に分けて計画することとし、発表者も他の多くの発表を見られるようにした。また、ブース配置は、近い研究内容をそばに置きながらも様々な分野の発表が混在するように工夫して、自然に交流がなされるように気を配った。

(ウ) 事業の成果を検証するために用いた具体的な方法と結果

アンケート調査など

本年度は他事業（12/24科学三昧）の一部として実施したので、本事業独自のアンケート実施していない。

(3) 検証

昨年、複数の部活動顧問から専門家からの指導が役に立ったとお礼のメールをいただいた。また、今年は、自然科学部の顧問から、事前に、困っている件について質問をしたいがどの分野の研究者が指導に来場されるかといった問い合わせもいただいた。この会への期待が膨らんでいることが窺える。

また、実施に関しては、講師の派遣や会場の手配まで、名古屋大学理学研究科の先生方・事務部の方から全面的な支援をいただいている。この場をお借りしてお礼を述べたい。